

第1回 アドバンスステージ研修

令和5年6月16日(金)



講演 「でいあシート作成が取り持つ同僚との連携・協力」

講師 帝塚山大学 教授 松浦 真理氏

1. 事前課題「でいあシート」についての意見交流（6グループで話し合い、発表する）



- ・「でいあシート」を作成しての感想（気づいたところ・難しかったところ・工夫できるところ等）・作成にどのくらい時間がかかったのか。
- ・「でいあシート」の作成にあたり、どのような視点を大切にしていけるのか。今後の園での研修方法や活用について。

『 』 歳児 月 園	
写真	
エピソード	保育者の思い
子どもの育ちや学び	家庭だったら…

- ・1場面についてエピソードを深めて伝えることができる。
- ・以前の事例に比べると書きやすさはあるが、環境や援助面をエピソードに入れるとまとめきれない。（焦点を当てて書く必要がある）
- ・保護者と対話するツールになる。
- ・園と家庭で子どもへの思いを共有することができる。
- ・時系列ではなく、ピンポイントでエピソードを書く方が書きやすかった。
- ・家庭だったら…の部分は、様々な家庭への配慮を考えるとどこまで伝えればよいのか。してほしいことが強制にならないようにしたい。
- ・エピソードに関する写真を用意する難しさ。
- ・エピソードを保護者にも伝わるように書くことや端的にまとめること。（読み手がいるという観点で文章化していくこと）

作成時間は30分程度～半日ぐらい。
(1時間～2時間程度が多かった)



- ・若手職員の育成：保護者への啓発において、行事や活動のみの記載になりがちであるが、「でいあシート」の項目から育ちや学びを書き入れること・保護者とつながることの意識付けになる。また、子どもの姿を見取り、分かりやすく相手に伝わるように発信することを学べる。
- ・写真：エピソードに合わせて複数枚使う・吹き出しや矢印を使う。
- ・決まった様式に限らず、ねらいや用途に応じてその都度レイアウトやサイズを自由に変えながら掲示することができる。
- ・「でいあシート」をそのままホームページ・クラスだよりに活用。
- ・「でいあシート」を見てもらい、保護者からの反応や返信があるとやりがいになる。
- ・研修では一つの「でいあシート」から、保育者の思い・家庭だったら…について、語り合うことができる。
- ・小学校との連携においても具体的なエピソードから「子どもの育ちや学び」を伝えていくことに活用できる。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（10の姿）の内容を示しながら伝えることもできる。

2. 松浦先生講演

事前課題の「でいあシート」から：素朴な感想や疑問とそれに対するヒント

- 取り上げたエピソード：命の不思議さ、大切さ（虫やザリガニなどの生き物、水遊び）
社会との繋がり、世の中のもの・ことへの関心や興味
- 写真＋エピソード（文章）：長い文章を短くすることでアレンジしやすい。
経験年数や文章を書くことに得意不得意がある。
- 写真の選び方：個人・集団・物にピンポイント・手元だけなど自由でよいのでは。
子ども自身が写真を撮ってもよいのでは。
- エピソードの量：書くことで自分の保育の振り返りになるが、写真で伝わることは説明しなくてもよいのでは。
- 魅力的なタイトル：タイトルと直結した部分は、太字など強調・色を付ける・字体を変えるなど
⇒ここを読めばよいと誰にでも分かる工夫
- 誰とのつながりを意識する？

「家庭だったら…」

- ・保育者目線でアドバイスをしたつもりでも、保護者の捉え方は様々である。
- ・家庭での子どもとの生活とつなげられるような点を、保護者目線になり考えていく。
- ・時間をかけて親子で考えていけることや、すぐにできることなど分類をしてみる。

「子どもの育ちや学び」

- ・保護者に向けて：行事だけでなく日頃のおそびを通して様々なことを学んでいることへの気づき・理解につながる。
- ・小学校に向けて：「10の姿」や「3つの柱」（学びに向かう力、知識・技能、思考力・判断力・表現力など）で表現してもよいのでは。

「でいあシート」を利用した同僚との連携・協力の一提案

- 保育観の違う者同士のすり合わせをどうするか
- 世代間ギャップへの対応
- 自分の考えや思いを自然に伝えるには？

- 今後に向けての課題 ～「でいあシート」を作成する中で～
 - ・複数の保育者で、少しずつすり合わせをして作成していく。
 - ・話し合いをする中で、互いの思いに気付いたり共感したりする。
 - ・保育観の違いはあるが「より良いでいあシートを作成する」という目的をもとに、表現方法などをすり合わせていき、保育者間で思いを共有していく。
 - ・お互いの保育観を知り合える機会にする。